Ⅱ 教育方針

1 経営理念

将来、社会に貢献できる児童を育てる。そのためには、教師の指導力の向上に努めるとともに、基礎基本の力の定着と活用力の育成、やさしく思いやる心の育成、たくましく生きるための健康と体力づくりを図る。

2 教育目標

知・徳・体の調和のとれた品性ある子の育成 ー笑顔いっぱいの学校ー

3 学校経営目標

(1) 学校の現状

- ①学力にはかなり格差があり、家庭学習の習慣が十分に身につけていない児童も多い。また、全体的に活用力はまだ十分に身につけていないとはいえず、その指導法を工夫改善していきたい。
- ②やさしく、素直な児童が多い。心や思いをどのように表せるとよいかについて考えさせ、より高いレベルの到達を目指していく。また、いじめや不登校など、児童・保護者への対応が難しい事案があり、各機関と連携し組織として一丸となった対応を行っていきたい。
- ③児童の体力・運動能力は、全身持久力の向上が見られるが、柔軟性、跳ぶ力に課題が残る。自ら運動に向かう意欲を向上させるとともに、運動の機会と質の向上をねらった働きかけをしていきたい。

(2) 児童に関する目標

- ①知恵を出し合う子
- ②思いやりを形で表す子
- ③きびきび動く子

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ①自ら「夢」を児童に語る教師
- ②児童とともに歩み、明るく活力に満ちた教師（学校）
- ③自己研鑽に努め、専門性・指導力を高め合う教師（学校）
- ④地域や保護者とともに児童をよりよくしていこうとする教師（学校）
- ⑤自分に合ったワークライフバランスを目指す教師（学校）

4 今年度の重点目標

(1) 確かな学力の形成

①校内研究の充実

- ・年1回以上の研究授業に取り組み、授業力の向上を目指す。
- ・積極的に外部講師を招聘し、国語科を通して集団解決の指導の在り方を追究する。
- ・学び合う学習集団を育成する。そのために、「聞く力の育成」を第1の基本事項とし、「全員挙手」「大きい声で最後まで言うこと」「心地よい反応をすること」「結論・根拠・理由を伝えること」を大切にする。また、解決に至るまでの学びのプロセスを大切にする。
- ・「学び合ってわかる授業広陽モデル」に沿った授業を行う。
- ・月ごとに重点事項を設定し集中的な取組を実施する。達成度を把握しながら授業の質の向上を目指す。

②「学力向上プラン」を基にした授業実践の充実

- ・当該学年で身につけるべき基礎学力の確実な定着を図る。そのために、単元末テストは90点以

上を目指す。また、直しの徹底による確実な定着を図る。

- ・習熟と活用、ふりかえりの時間を授業モデル化する。その中で思考力・判断力・表現力の定着の確認及び書く力の向上を図る。
- ・活用力の検証問題を実施する。そして、自己課題解決力の育成に向けた授業の改善を図る。
- ・朝学習の時間・学習タイムの充実を図る。学力課題に即した補充学習を行う。
- ・家庭学習の徹底を図る。また、「親子ふれあい読書の日」には児童全員に読書に取り組みさせる。図書を学習資料とし「調べ学習」の習慣を身につけさせる。

(2) 豊かな心の育成

①全教職員が即応できる体制づくりと適切な対応

- ・児童の問題行動等について校長・教頭・主幹教諭・生徒指導主事・学年主任への報告、連絡、相談を徹底し、迅速な対応にあたる。また、情報を教職員全員が共有し、予防的対応や事後対応にずれが生じないように組織的な取組を図る。

②いじめのない学校づくり

- ・「いじめアンケート」、「学校自己評価」、日常の観察を通していじめの早期発見と即時対応を図る。
- ・生徒指導部と道徳教育推進教師が連携し、いじめをしない、させない指導を充実する。
- ・「笑顔いっぱいの学校づくり」のもと、自慢できる学校づくり、楽しく安心して活動できる学校づくりを目指す。そのためには、児童会活動のテーマに位置づけ、児童自らが意識して取り組める体制を整える。

③「み・そ・あ・じ（身だしなみ・掃除・挨拶・時間）」の環境づくり

- ・人を大切にする具体的な姿を「元気に挨拶する姿」、ものを大切にする具体的な姿を「無言ですみずみまで掃除する姿」とし、年間を通した指導に取り組む。
- ・「学習の場に相応しい身だしなみや持ち物」や「廊下歩行」「時間を守る」の指導し、落ち着いて学習できる環境を整える。
- ・下校前の机・椅子の整頓、ブックの整頓、床・廊下のゴミ拾いが習慣として身につくよう指導する。
- ・月ごとの重点事項を設定し、達成度を把握するとともに改善策を実施する。

④思いを形で表す場づくり

- ・地域の人材や身近な素材、具体的な体験的活動を取り入れた道徳授業を工夫し実践する。
- ・児童会行事、委員会活動、たてわり活動、異学年交流、学校行事を通して、「笑顔いっぱいの学校」を目指す。
- ・優しさを広げる「やさしさりレー」の取組を年間通じて行う。

(3) 健康でたくましい体の育成

①挑戦する場づくり

- ・年間を通して運動に親しむ機会を設けることで、体力向上を目指す。「スポチャレいしかわ」の取組を通して、挑戦する厳しさと努力してやり遂げることの楽しさを味わわせる。
- ・体育授業での30分以上の運動時間の確保を図る。
- ・新体力テストの結果をもとに、課題となる運動の目標を設定する。10月に課題となった運動について記録に挑戦する取組を実施する。

②きびきびとした動きの指導

- ・体育の時間や体育的行事の場では、駆け足で集合させる。体育座りで聞くなどのけじめと運動量のある指導を行う。
- ・全校朝会、集会、避難訓練を通してすばやく行動する指導を行う。